

<株式会社エフエム東京 第376回放送番組審議会>

1. 開催年月日:平成22年3月1日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社10階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数7名(社外7名 社内0名)

◇出席委員(7名)

青 池 慎 一 委員長	横 森 美 奈 子 副委員長
渡 辺 貞 夫 委員	内 館 牧 子 委員
香 山 リカ 委員	秋 元 康 委員
西 田 善 太 委員	

◇欠席委員(0名)

4. 議題:

【番組名】特別番組「FM FESTIVAL 2011 未来授業～明日の日本人たちへ～」
(ダイジェスト版)

【放送日時】2011年2月11日(水) 16:00～18:00 放送分

【番組概要】

今年のFM フェスティバルは、これまで3年間にわたり実施してきた「全国のリスナー投票によるリアルな音楽アワード」から、若者の心理変化を見極めて大きく方向転換を行い、「FM FESTIVAL 2011 未来授業 ～ 明日の日本人たちへ」とタイトルし、2月11日(金・祝)16:00～18:00に放送しました。

グローバル化が加速し、ますます国際的な視野が求められる時代にあつて、国内では就職難や超高齢化社会の進行など、若者を取り巻く環境は厳しさを増しています。番組は未来の日本を担う世代である大学生に向けて、彼らが社会の主軸となる10年後を生き抜くための羅針盤を探求してもらい、未来へ向けてのエールを贈ることを企図し、「知の巨人たち」を講師に迎えた公開講義、公開討論形式で構成しました。公開収録は2月2日(水)に TOKYO FM ホールにて7時間にわたり実施し、2月11日にはそれを2時間に編集し放送しました。

講師と講義内容は以下の通りです。

・国際政治学者・姜尚中氏

「10年後君たちは日本人でなくなるかもしれない。グローバリゼーションの功罪」

・脳科学者・養老孟司氏

『『バカの壁』2011 年版最新講義。意識が世界の全てではない』

・環境科学者・北野大氏

『環境とは人間なり！もったいないとやせがまんの哲学～心の豊かさの時代』

当日は参加希望の大学生約 250 名をホールに迎え、3 つの講義を行いました。講師たちは持論を展開しつつ、折々に学生たちに質問を浴びせて彼らを刺激し、発言を求めながらの討論授業は熱気に包まれました。

特別番組では脳科学者の茂木健一郎氏を総合司会に立て、講義の模様を伝えながら解説、総括しました。

公開収録には、一般新聞、教育関連メディアなど 10 社の取材が入り、当社の新しい試みに注目が集まりました。テレビでは 2 月 5 日(土)テレビ朝日の「やじうまプラス」内でこの授業の様子が取り上げられました。

放送終了後にビデオポッドキャストで配信した各講義の完全版映像も大きな反響を呼び、2 月 13 日付け『iTunes Store』人気ランキング～ビデオポッドキャスト部門では、19 万件を超えるダウンロード数を記録し 2 位となりました。(1 位は「CNN ニュース」。1 回配信の特別企画では 1 位。配信開始 1 週間で 50 万 DL 突破)。なお、2 月 20 日現在では、累計 120 万を超えるダウンロードとなっています。

当日参加した学生たちのアンケートからは、次のような答えが最も多く寄せられました。「自分はなんて無価値な人間なんだろうと、思い悩んでいる中での授業だった。すごく希望を持てたし、何かをしていこうという展望が開けた。また、同世代の熱い意見に耳を傾けることで様々な刺激を受けた。今回このような機会を設けていただいたことに感謝したい。ぜひ、また有意義な未来授業をやってほしい。」(20 歳女性、大学 2 年、東京在住)

放送後のツイッターにも若者からの「素晴らしかった」「毎月やってほしい」などの賞賛が、数多く集まりました。今回の結果は、今後の番組作りに大いに活かしていくべきと考えております。

< 試聴時間:約 26 分 >

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

■ 「10 年後の自分」というテーマ設定が秀逸だった。学生に引き寄せるテーマになっていたのがとても良かった。学生はソーシャルメディアでつながっている。だからその分、社会と自分の感覚との格差に悩む場面も多いと思う。この番組は、大人

が味方になってくれていると感じられる内容になっているのが良かった。テキストとの違いは、喋り方、声、抑揚、スピードなどが、これだけ内容に影響するということ。特に養老さんは素晴らしかった。これがラジオの強みなのだと思う。

- 複雑な思いで聴いた。内容や企画は非の打ち所が無い。ただ、いつも TOKYO FM を聴いて音楽を楽しんでいるようなリスナーはこれをどう聴いたのだろうか？ラジオでの放送は要点をまとめた内容になっていて、ポッドキャストでノーカット版が聴けるようになっていて、良い事なのかどうかは良く分からないが、ポッドキャストにつなげるための新しい放送のカタチなのかなと思った。この番組は意識が高い学生に向けた内容。これからそういうターゲット方針にしていくのか？単純にいい番組と言ってしまっているのか、悩ましく思った。
- すごくいい企画だと思った。何より3人のお話がとても面白かったので聞き入ってしまった。ただ、2つ問題点がある。1つは、この企画をなぜ TOKYO FM でやったのか？ということ。最近はどこでもこのパターン。学生の前で文化人が語り知を共有する。この10年くらいみんな知を求めている。どこでも必ずやる企画。だから、TOKYO FM らしさがもっと出せていけばいいと思った。たとえば、音楽でつないでみるとか、TOKYO FM らしさにこだわってほしかった。もう1つの問題点は、まとまりすぎている、ということ。このようなまとめになるんだろうなと予想できた。たとえば、「School of Lock!」の公開番組でこれをやったなら、僕はもっと驚いたと思う。来場していたのは、判で押したような優秀な学生たち。はじめからアンチがない状態で、反論も摩擦もないのはどうかと思った。すばらしいキャスティングだからこそ、TOKYO FM がキレイに料理するのでは無く、もっとゴツゴツしたものをぶつけたほうがより面白くなったのではないかと思う。
- 最近の若い人たちは、健全な意味で、自信が無くて震えているように思う。言葉使いが悪くて、いい気になっているなど思うこともあったが、本質は私の学生時代とあまり変わらないのかもしれない。学生のツイートを見ていると、3人の言葉に元気づけられたようだ。自分の若いときのことを考えると、大人が考える以上に、学生は養老さんや姜さんのちょっとした言葉に反応したのかもしれない。解説を総括するという演出はいらなかったように思う。ありきたりな結論よりも、学生は3人の話をもっとストレートに聞きたかったのではないだろうか。非常にいいキャスティングだったと思う。
- 非常に面白く、いい企画だと思う。いいテーマで話をしている。放送では編集されてしまっているのが勿体無いと思った。もっと余裕を持って、一人2時間の番組で

もいいと思った。せっかく講演者と学生が集まっている状態があるのだから、彼らの交流からいいモーメントを引き出すこともできたのではないかと思う。ただ、こういうことは学校や家庭で学ぶこと。今の時代、このようなコミュニケーションが希薄なのだと思う。10年後だけではなく、目の前のことを考える機会も必要なのかもしれない。

■ 面白くて良い番組だと思った。ジャンルとしては教育番組だと思うが、最近ではテレビのバラエティなどでもこういうことを放送していて、みんなこういうことを求めている時代なのだと思う。そういう意味でもこの番組は意義があると思う。ただ、キレイにまとまりすぎているのが気になった。質疑応答の学生の発言も優秀で、分からない、などと言出す学生はいなかったのか気になった。今の若者は自信が無く、真面目すぎるし、周りを見すぎているように思う。でもそういう子どもたちをつくったのは大人。この番組は大人は味方だと伝わってくる内容だった。若者に聞かせたい番組だと思った。

■ 若者のラジオ離れが深刻な中、そういった問題意識をベースに若者とラジオを結ぶ機会としてFMフェスティバルを構築していくのは有意義なことだと思う。今回のテーマは面白かった。自分自身も若い頃は10年後なんてとても描けず、混沌と不確実性の中を模索していた。そんな若者に向けてのテーマとして、10年後を考えるのは良いテーマ設定だったと思う。様々な講演会などで、知を消費財としてのレベルで話を聞くことは多い。ただ、大切なのはそれをもとに自分で知を作り出すこと。今回の放送では、知を作り出すプロセスを刺激するような話が随所にあったと思う。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「JOGLIS SUNDAY」

3月27日(日) 5:00～7:30 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会 4月5日(火)に開催することを決めた。

以上